

次期総合計画案 ネットで意見

3人に市長感謝状

名古屋市の次期総合計画案にインターネット上で意見を出し合うウェブサイト「Collagree（コラグリー）」で、多くの賛同を得た投稿者二人に対し二十八日、市長感謝状が贈られた。サイトは昨年十一月十九日から十二月三日まで「ナゴヤのまちを考えてみよう」をテーマに開設された。

感謝状を受けたのは、岐阜県美濃加茂市

蜂屋町の生活支援員餅木優子さん（三五）、瑞穂区岳見町の研究補助員内藤志麻子さん（四〇）、東京都中野区中野坂上の高校一年伊藤保世君（二〇）。餅木さんは障害者の芸術作品を生かす街づくりを提案。内藤さんは地域防災の重要性を訴え、名古屋出身の伊藤君は名古屋はもっと名古屋らしさを追求すべきだと主張した。

サイトには二百六十

四人が登録し、千五百十一件の投稿があった。開設した名古屋工業大の秀島栄三、伊藤孝行、伊藤孝紀さんの三研究室が、建設的な発言で多くの賛同を得たかどうかを基準に三人を選んだ。

で開催しているが、市

贈呈式では、三人が河村たかし市長から感謝状を受け取った。市は現在、総合計画案への意見を聞く「タウンミーティング」を各区また違う意見が参考になる」と話した。

長は「サイトでは若い人が圧倒的に多く、タウンミーティングとは



記念撮影する（左から）内藤さん、伊藤君、河村市長、餅木さん＝市役所で

タウンミーティングは二十八日まで二十四区で開催。平均で一区百十八人が参加している。市は昨年十月に総合計画の中間案を公開し、タウンミーティングでの意見をもとに最終案を作る。

表。市はサイトやタウンミーティングでの意見をもとに最終案を作る。

（中村禎一郎）